

Ю.Малахова,
*Харьковский национальный педагогический университет
имени Г.С. Сковороды, Харьков*

ПРОБЛЕМЫ МЕЖКУЛЬТУРНОЙ КОММУНИКАЦИИ ПРИ ПРЕПОДАВАНИИ ЯПОНСКОГО ЯЗЫКА

В статье раскрыты понятие межкультурной коммуникации, актуальность проблемы общения между культурами в современных условиях, основные особенности обучения межкультурной коммуникации.

Y.Malahova,
Grygoriy Skovoroda National Pedagogical University of Kharkiv, Kharkiv

ISSUES OF INTERCULTURAL COMMUNICATION PROBLEMS WHILE TEACHING JAPANESE

The notion of intercultural communication, topicality of the problem of communication between cultures in contemporary conditions and the main peculiarities of the education of intercultural communication are exposed in this article.

T. Midzumoto,
Муниципальный университет Кіта-Кюсю

日本語教科書におけるジェンダー： 教科書の日本女性像は現代社会の実態を伝えているか 日本語教科書、日本の家族像、高齢者世帯、単独世帯、夫婦のみの世帯

要旨

日本語教科書は、多くの学習者が初めて日本文化に接する機会でもある。国内外で広く使用されている日本語教科書全16種類を調査したところ、日本の家族形態は、35年以上前の「夫婦と未婚の子」が大半を占め挿絵入りで印象づけられ、その家族の妻の大半は専業主婦である。日本語教育関係者への意識調査によると、教科書には「共働き」と「単身者」を反映させるべきであるという意見が大多数であったが、政府の調査によっても、35年前に半数近くを占めていた「夫婦と未婚の子」という家族形態や専業主婦は減少し、現代社会では「単独世帯」や「夫婦のみの世帯」、殊に「高齢者世帯」が急増している。日本の現状を正しく反映する教科書が、今後求められる。

1. はじめに

1. 1 研究目的

日本での生活経験がない日本語学習者にとって、日本語教科書は日本社会を

知る上でも重要な情報源であるため、実際に教科書が描く日本社会像から多大な影響を受ける可能性が高い。教科書が伝える日本社会の姿が現状と異なっていれば、教える教師が訂正し実情を伝えない限り、学習者は日本社会に対して誤った印象を持つこととなる。現在、現場で広く使用されている多数の教科書では、既に少数化した日本人の従来のステレオタイプやライフスタイルの描写が会話や挿絵に多く認められる。殊に、日本女性の性別役割分担の描写と家族像は、その傾向が顕著である。本研究では、先行研究を踏まえ、日本の家族像に焦点を絞り教科書を調査分析する。次に、日本語教師がその描写法をどのように捉えているのかに関して調査したアンケート結果を分析し、それらを日本社会の現状と比較分析する。その結果より、今後の日本語教科書制作の方向性を考察するものである。

1. 2 先行研究の概要

日本語教育の分野ではジェンダーの視点から探った先行研究はまだ多くはない。その主だったものとして、子供向け教科書の性別役割分業の挿絵分析を行った石田(1998)および渡部(2001)、初級教科書の挿絵における男女比、職業に於ける性別役割分担の描写比較、ステレオタイプの女性像などについて報告している渡部(2006)の3点が挙げられる。渡部(2006)は、5種の日本語初級教科書分析を行い、職業における明確な性別役割分業の描写、女性像・男性像のステレオタイプ、ポライトネスの性差などの性差別的描写が含まれていることを報告している。水本の先行研究(2012, 2013)においては、調査対象の範囲をさらに広げ、日本国内でよく使用されている初級教科書9種、中級教科書7種、合計16種18冊を研究分析した。その結果、次のようなことが分かった。

(1) 教科書の「家庭内の女性」は中年の専業主婦が大変を占めているが、現代社会では、主婦の約3分の2は外で働く仕事を持った女性である。

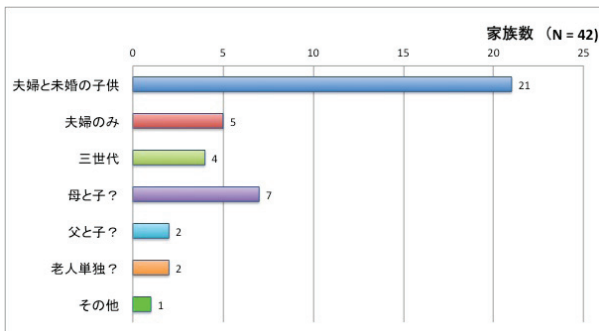
(2) 教科書の「職場の女性」は、20代の若い事務系一般職(OL)が大半を占め、その仕事は、従来通り、職場のキャリア(総合職)を支える役割である。しかし、現代社会では、職場で働く女性の約3分の1強は技術・専門職に従事しており、近年、女子就職者の4分の3強が総合職に従事し、一般職に従事する者は約4分の1以下である。

(3) 日本語教科書においては、主に社会的地位の高い知的職業に従事する多数の男性に対し、主にサービス業や小売業などの分野で働く女性という構図が印象づけられている。しかし現代社会では、医療・福祉と教育・学習支援の分野では、女性就業者数の方が多く、いずれも事務職従事者より技術・専門職従事者のほうが多い。女性の割合が多い職業は、看護師、薬剤師、小児科医、産婦人科医。

2. 日本語教科書研究：日本の家族像

先行研究(水本2013)と同様に、本研究に於いても、日本国内でよく使用されている初級と中級教科書16種18冊を調査対象とした。選択した教科書は、Amazonはじめ数種の書店の売れ行き調査、および現場で長年教える教師からのヒアリングをもとに、国内外で広く使用されているものを選別した。⁽¹⁾

教科書の中には、一定の状況設定のもとにモデル会話やそれに類する代表的な会話が紹介されているが、初中級の教科書では、通常、メインとなる家族が出現する。その家族の夫の職場やメイン家族の居住する周辺地域に住む他の家族など、教科書の中には、著者が描く典型



挿絵 日本語教科書の代表的な家族形態

的な家族形態が提示されている。その典型が、挿絵のような「中年夫婦と未婚の子供2名（妻は専業主婦）」の家族構成である。

教科書における家族構成を調べた結果が次の図1である。教科書16種中に登場する42家族のうち、半数が「夫婦と未婚の子」である。そのうち、共働き世帯はわずか5世帯のみ(約12%)であり、その他は専業主婦である。次に多いのが、「母と子?」の7世帯ではあるが、これは、母子家庭であるかもしれないが、もしかしたら、単発的に出現したため、そうではなく「夫婦と未婚の子」世帯に属するのかもしれない。いずれにせよ、「父と子?」(2世帯)や「老人単独?」(2世帯)も、同様にその家族形態は不確かである。教科書には、メイン家族やその家族の父親が勤務するメイン職場、取引先、およびそれらに関係の深い人たち以外

に、単発的に会話および聴解練習などに出現するものも多数存在する。それらの人物の家族形態を正確に見極めることは不可能であるため、それ発的に会話および練習問題や聴解問題に出現するものも多数存在する。それらの人物の家族形態を正確に見極めることは不可能

それ「?」を付加した。家族形態が明白であったもので「夫婦と未婚の子」の次に多いのは、夫婦のみ(5世帯)と三世代(4世帯)であり、それ

ぞれ11.90%、9.52%と約1割である。

	おとうさん otou-san (father)	おかあさん okaa-san (mother)	おにいさん oniisan (elder brother)	いもうと imouto (younger sister)
Occupation/ School	かいしゃいん kaishain (works for a company)	しゅふ shufu (housewife)	だいがくいんせい daigakuinsei (graduate student)	こうこうせい kookoousei (high school student)
Age	48	45	23	16

図1 日本語教科書の日本の家族形態

3. 日本語教育者への意識調査：教科書の中の家族像

先行研究（水本2013）では、日本語教科書における「女性像」に関し「女性の職業」について日本国内外（外国は韓国と欧州）の日本語教育者を対象にアンケート調査を実施し、その結果を分析した。本研究では、さらに、日本語教師が教科書に反映させたい日本の家族形態について把握することを目的とした。その調査方法に関しては、紙面の関係上ここでは詳細に述べることは出来ないが、別途水本(2013)を参照されたい。

本調査では、合計200名の日本語教師に対し、教科書に描かれる日本の家族形態に関して次のような質問をした。この質問に先行して「ほとんどの日本語教科書では、家庭内の女性の役割は専業主婦に限られているが、それに関してどう思うか」という質問をし、それに対して「今は、様々な形態があるので、それを反映すべきだ」と回答した95%に次の質問をした。その回答結果を図2に表す。

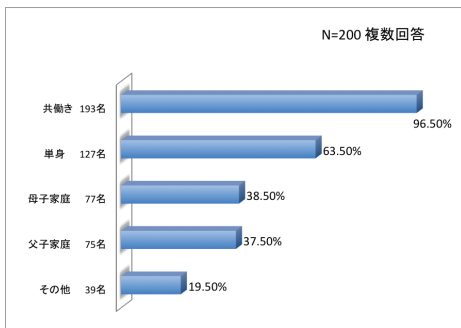


図2 日本語教師が教科書に反映させたい
 <質問> 「具体的には、どのような家族形態を反

世帯構造別にみた高齢者世帯数の年次推移
 Trends in number of aged households by structure of household
 1986, 1989, 1992, 1995, 1998, 2001, 2004, 2007, 2010

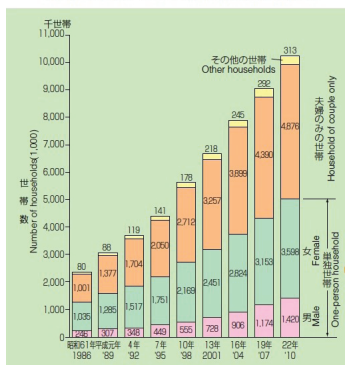


図3 25年間の高齢者世帯数の急増

映させたら良いと思いますか」(複数回答可)

まず、96.5%という高い比率で「共働き」が教科書の中に描写されるよう求められていることが分かった。これは、水本(2012)でも報告されているように、教科書の中の妻の労働状況として「専業主婦」が53%から70%の可能性で存在し⁽²⁾、「外で働く妻」がわずか14%しか登場しないことから、現実(平成22年には、「共働き世帯」が56%であり、30年前に70%を占めていた「専業主婦世帯」は平成8年あたりより「共働き世帯」に逆転されて現在に至っている⁽³⁾)との多大な矛盾を実感した上での回答であろう。次に多いのが63.5%の「単身」であるが、急速に進む高齢化社会に伴う独居高齢者の増加や学生を含めた単身者が教科書には印象付けられた形で登場しないため、日本語教師に求められていると考えられる。「その他」の回答中には、要介護家庭4、三世代4、事実婚3、離婚家庭2、同性婚2、仕事を持つ未婚女性2、独居老人2、などが含まれる。

4. 日本の実情を伝えるデータにみる日本の家族形態

日本語教科書では、「夫婦と未婚の子の世帯」が主流をしめているが、現代日本社会における実態はどうであろうか。紙面の関係上、図示は控えるが、「平成22年国民生活基礎調査」の結果から厚生労働省が平成24年3月に公表した、昭和50年(1975年)から平成22年(2010)年までの35年間の世帯構造別世帯数の年次推移に関する統計によると、確かに、かつては「夫婦と未婚の子のみの世帯」が半数近くを占めていた(42.7%:1975年)が、その後25年の間に次第に減少し、それに代わって「単独世帯」と「夫婦のみ」の世帯が増加してきている。平成22年の統計結果では、「夫婦と未婚の子のみの世帯」(30.7%)につき、「単独世帯」(25.5%)、「夫婦のみの世帯」(22.6%)が多い。過去25年間、一人暮らしや夫婦のみで生活する世帯が増加傾向を示しているところから見ても、今後の日本の家族形態は、教科書において主流の「夫婦と未婚の子の世帯」が、さらに減少してゆくと推測される。

さらに、同調査による、昭和61年(1986年)から平成22年(2010年)までの約25年間の高齢者(65歳以上)世帯数の年次推移を表した図3からも明らかであるが、

2010年の高齢者世帯数は、25年前の4倍以上に急増し、全世帯の21%を占めている。そのうち、単身者は50.7%であり、今後、さらに高齢化社会が進むとともに、夫婦のみや単身の高齢者世帯が更に増加することが大いに予測される。

5. まとめと今後の課題

日本語教科書では、描写される主流の家族像は「夫婦と未婚の子・妻は専業主婦」であるが、その家族形態は近年減少し、現実には、家族の妻は専業主婦ではなく働く妻である。また、高齢化に伴い「高齢の夫婦のみ」あるいは「高齢の単身」という家族形態が急増しているが、日本語教科書では高齢世帯は積極的には描かれていない。かつての「家庭にとどまり家族の世話をし、家を守る」というジェンダー・イデオロギー的な女性の存在が、いまだ教科書の中の家族像にも積極的に描かれているという現状に対し、教師へのアンケート結果によっても明らかなように、大多数の教師がその偏った描写法を改変すべきであると考えている。日本社会の実情と今後変わりゆく近い将来をも見据えた教科書が描く家族像が再考される時期が来ていると言えよう。日本語教科書に描写され日本の家族像として印象づけられる家族形態として、これからの教科書には、高齢世帯を含めた単独、あるいは、夫婦

のみの世帯も積極的に描かれるべきであろう。今後は、先行研究で明らかにした現代日本の女性像、女性の職業・職種とともに、社会学的な見地からのアプローチも試みつつ、どのような家族像を描けば、より実情を伝えられるか、具体的な提案をしてゆきたい。

注

(1) 巻末の参考資料「調査対象日本語教科書一覧」を参照。

(2) 統計結果は、専業主婦53%、働く女性14%、不明33%であったが、この「不明」は、単に「母」、「奥さん」、「妻」と表示されており、仕事を持っているかどうかは定かではない。この中の少なくとも半数が専業主婦であると推察すれば、約70%が専業主婦である可能性は高い。

(3) 内閣府男女共同参画局 (2011) 「第1-2-18図 共働き世帯数の推移」『平成23年度版 男女共同参画白書』, (2011年6月21日公表) を参照。

参考文献

(1) 石田孝子(1998)「子供向け日本語教材の分析-教科書に含まれる性別役割分業の描写から-」『JALT日本語教育論集』3, 全国学校教育学会,29-39.

(2) 厚生労働省大臣官房統計情報部(2012)「世帯構造別にみた世帯数の構成割合の年次推移」『グラフで見る世帯の状況: 国民生活基礎調査(H22)の結果から』,6.

(3) 厚生労働省大臣官房統計情報部(2012)「世帯構造別にみた高齢者世帯数の年次推移」『グラフで見る世帯の状況: 国民生活基礎調査(H22)の結果から』,12.

(4) 水本光美(2012)「日本語教科書における日本女性像: 家庭内の女性と仕事場の女性のステレオタイプ」『基盤教育センター紀要』第12号,北九州市立大学,1-20.

(5) 水本光美(2013)「日本語教科書における女性の職業: 教科書文政と日本語教師の意識調査分析」『基盤教育センター紀要』第16号,北九州市立大学,19-43.

(6) 渡部(石田)孝子(2001)「子供向け日本語教材における性別役割分業の描写-ジェンダーフリーの教科書を目指して」『日本語とジェンダー』創刊号,日本語ジェンダー学会,71-84.

(7) 渡部孝子(2006)「日本語教材とジェンダー」『日本語とジェンダー』日本語ジェンダー学会編,佐々木瑞枝監修,ひつじ書房,95-107.

参考資料
調査対象日本語教科書一覧

		書名	出版年	出版社
日本語教科書	初級	Situational Functional Japanese: Model Conversation	1994	凡人社
		Total Japanese: Conversation 2	1994	早稲田大学
		みんなの日本語 初級I (本冊)	1998	スリーエーネットワーク
		みんなの日本語 初級 II (本冊)	1998	スリーエーネットワーク
		げんき II	1999	The Japan Times

日本語教科書	初級	文化初級 II	2000改訂	凡人社
		まんがで学ぶ日本語（生活編）	2003	アスク
		エリンが挑戦！ にほんごできます	2007	国際交流基金
		日本語会話トレーニング	2008	アスク
		Japanese for Busy People III (3 rd edition)	2007	講談社インターナショナル
	中級	中級の日本語	1994	The Japan Times
		ニューアプローチ 中級日本語（基礎編）	2002	日本語研究社
		ニューアプローチ 中上級日本語（完成編）	2002	日本語研究社
		J Bridge（新装版）	2009	凡人社
		なめらか日本語会話	2005改訂	アルク
		まんがで学ぶ日本語会話術	2006	アルク
		会話の日本語	2007改訂	The Japan Times
		マンガで学ぶ日本語表現と日本文化（多辺田家がいく！！）	2009	アルク

УДК-378

Т.Омельченко, Ю.Хаменко,
ПВНЗ “Інститут сходознавства та міжнародних відносин
“Харківський колегіум”

ВІЗУАЛЬНІ НОВЕЛИ ЯК ОДИН ІЗ ЗАСОБІВ ВИВЧЕННЯ ЯПОНСЬКОЇ МОВИ

Стаття присвячена візуальним новелам як засобу навчання японській мові. Комплексне поєднання зображення, тексту та звуку надає можливість покращити сприйняття інформації. Візуальні новели можуть стати провідником у вивченні японського побуту, історії, особливостей спілкування. Метою дослідження є спроба залучити студентів та викладачів до використання візуальних новел у навчальному процесі.

Ключові слова: візуальна новела, методика викладання, відео ігри, сучасні методи навчання.

З кожним роком інтерес до японської мови збільшується в десятки разів завдяки впливу східної культури на Європу через ЗМІ, літературу, аніме та інші засоби. Разом з цим бажаючих вивчити японську та вдосконалити свої навички володіння мовою стає дедалі більше.